



いとう英治 通信

令和3年
3月

第4号

新型コロナウイルス対策とデジタル化を進めつつ、 人が幸せに暮らせる世の中を目指します。

昨年広島県では、新型コロナウイルスの感染が3月に初めて確認され、生活様式は一変し、人の行動様式や経済を含め社会への大きな影響が続いています。広島県では、コロナ蔓延以来、臨時議会や定例会を通して、感染予防や対策・支援と追加補正を繰り返し、コロナ対策として1,500億円以上が投入されてきました。しかしながら、複雑化した経済構造の中、不公平感が増大し、人の寛容性の縮小が進み、世知辛い世の中になってきた感じを受けるというのは言いすぎでしょうか？新しい生活様式に慣れてくれば、精神的には落ち着くと考えていた私の思いは、残念ながら少し甘かったようにも思えるのです。

世界中での蔓延や対策を見ると、今まさに時代の転換期にあると感じています。どんなに科学や医療が進歩しようとも、地球上には未知の領域が(まさに)未知数存在し、人類は見えざる手の上で懸命に時代を生きていると感じます。大自然の一員である「人間」がその摂理に逆らっては存在して行けないとの思いを持ちながら、政治が動くべきと感じています。自然との共生を基本に、県民の皆様が幸せに暮らせる仕組みづくりをコツコツと進めていく所存です。

最後に一番重要な事を書いておきます。デジタル化は一つの手段であり、これが全てではありません。既存の技術だけでは電子機器に不慣れで不得手な人がデジタル化の恩恵に預かりにくい場面も出てくるでしょう。これでは、意味がありません。最も大事なのは、すべての人がデジタル化の恩恵を意識すること無く、便利に生活できることであると考えています。デジタルとアナログの融合による人が幸せに暮らせる世の中を目指します。



三原市に、デジタルにも明るく、全国で2番目に若い市長が誕生しました。積極的に意見交換し、共に進んで参りたいと思います。

佐木島航路問題について ～ 航路見直しと運賃値上げに対し、対応を協議・要望 ～

離島に住む方・訪れる方にとって唯一の交通手段が船です。三原市・船舶会社・住民により協議を重ねておられる中、私にできることを考え、動きました。まずは、県の認識や支援策について県の担当者と意見交換し、以下の通り情報収集しました。



- ・県では、県内の離島をいくつかの圏域に分け、対応をしている。
- ・航路維持のための支援策はあるが、個人への支援は市での対応となる。
- ・値上げ金額は、国の定める金額を超えておらず、根拠がある。
- ・安全航行のための向田港の浚渫は、県の事業として進める。

その後、上記をふまえ、【1/29】この度の件は県としては適当な解決メニューがないため、三原市長と数日にわたり協議。→【1/30】知り合いの方より、島民の方が話したいと紹介あり。4区長様、市議会議員含め7名と意見交換。→【2/9】三原市長と直接会い、協議。→【2/10】県の特別委員会にて、三原の例を出しながら、今後の県の離島対策についてしっかり考えるよう要望(先輩議員にお願いしました)。

あくまでも主役は島民の皆様であり、その思いが届くよう動くのが議員です。少しでも皆様の思いが行政に伝わったとしたら、それは皆様の熱意です。



写真で見る活動報告

若い人が政治に関心を持ち、参画意識を醸成することは、地域のみならず、日本の将来にとって非常に重要です。その為、議員インターンシップを受け入れて活動しています。

▼ 岡田三原市長との意見交換



▼ 奥田世羅町長との意見交換



▼ 中本広島県議会議長との意見交換



▼ 被災地復旧状況の調査・視察

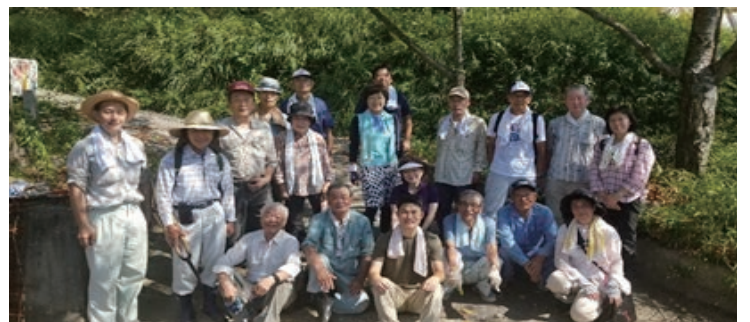


▶ 広島県子供議会に参加



◀ 大雨時に十分排水できない地域の山中にある治水ダム
の状況調査

▼ 山林（桜山）保護活動



決算特別委員会総括審査(要旨) デジタル化、災害対策、環境負荷低減などを 中心に質問させていただきました。



1. デジタルトランスフォーメーションの推進について

問 行政のデジタルトランスフォーメーションは、単にこれまでの業務プロセスをそのままデジタルに置き換えるのではなく、その前段としての業務プロセスを根本から見直し、最適な情報システムを構築すべき。県庁全体の動きを俯瞰し、横断的に進めて行くことが重要であるが、ITガバナンス向上にどのように取り組んでいるのか？また、国や他都道府県を始め県内各自治体との連携・共同化の取り組み状況と課題そして課題解決について問う。

答 情報システムの全体最適化を図るため、企画段階と開発段階において、担当課から情報戦略担当官と協議を行い、知見を反映させている。予算規模1億円をこえるシステムは、経営戦略会議の場でシステム構築等の是非を審議している。昨年度224件の協議を実施、2億円のコスト削減を行った。国の動きや技術開発動向を見ながら、ITガバナンスの向上に務める。他自治体との連携は重要であると認識している。例えば、マイナンバー制度の導入に伴い必要となった団体内統合宛名システムは鳥取県、岡山県と3県で共同利用しており、調達時には1億円以上のコスト削減になった。県内23市町とは、情報セキュリティクラウドを構築している。システム化は、市町において差異があり課題となっているため、国による法制化の動きや仕様書作成など統一標準化への動きがすすんでいる。これに即して、県としても引き続き、支援や助言を行っていく。

2. 災害時の避難について

問 広島県防災Webにより重要な情報が集約されている。広島県の進める「ひろしまマイタイムライン」との連携が重要であり、住民の状況に応じた情

報発信について対応をどのように考えているのか？また、各市町との連携が不可欠であるが、県としてどのように関わっていくのか？

答 これまでの取り組みに加え、AI防災チャットボットの実証実験やSNS上の投稿を活用した災害情報収集の取り組みを始めたところ。避難所の混雑状況を市町と連携して、スマートフォンやパソコンの画面上にリアルタイムに表示できるシステムを導入する予定。県民の皆様一人ひとりの避難行動につなげていくためには、皆様が自ら作成したマイタイムライン等の様々な情報と連携し、状況に応じた情報発信ができる仕組みが必要と考えている。避難を具体的にイメージできる情報を発信することや災害時には個々地域に応じた情報を取得共有発信できるシステムを構築し、県民の円滑な避難促進につなげていく。

3. 地域の拠点性に資する広域交通網の整備について

問 ウイズコロナ・アフターコロナを見据えた広島空港の拠点性を高めるためには、広島高速5号線開通はもとより、今後、国道2号線バイパスの延伸と広島中央フライトロードの整備が必要と考えているが、県としてどのように考えているのか？

答 中国横断自動車道、尾道松江線と広島空港、山陽自動車道を連絡する高規格道路であり県境を跨ぐ高速道路ネットワークと一体となって広域的な空港アクセスをはかる重要な路線であると考えている。三原市大和町から世羅町の間未整備区間を整備するには、膨大な予算と期間がかかるという課題がある一方、県内外の関係市町や空港経営改革推進委員会から早期の取り組みを求められている。次期計画の他道路との関係や投資効果やコスト縮減について検討を進めているところである。

4. 環境にやさしい広島県の実現に向けた取り組みについて

(1) 環境負荷の低減に向けて

問 自然環境への負荷を低減する取り組みは、人類の目指すべき姿であると考えている。経済成長を進めながら抑制するにはリサイクルも重要であるが、施設への補助金も伸び悩み、リサイクル率も伸び悩む中、今後どのように取り組もうとしているのか？

答 現在埋め立て処分されている多くが混合状態の物が多いため、コストや技術面で再生利用が困難となっている。今後は、がれき類や廃プラスチックなど埋立量の多い混合廃棄物の排出業者や処理業者を対象としてAIによる自動選別など、デジタル技術の導入促進、化石燃料の代替エネルギーとしての利用、さらには、SDGsによる自主的な意識の醸成など、新たな視点でのリサイクルの促進に取り組む。また、急速に設置の進む太陽光パネルなどの新製品・新素材が将来の埋立要因とならないようリサイクルの技術開発を支援していく。天然資源が無駄なく活用される社会を目指していく。

【要望】 産業廃棄物埋立税の延長に際して設定した埋立率 1.5%の達成・維持に向けての取り組み強化を要望する。

(2) 低炭素社会の実現に向けて

問 地球環境の変化の一因としてCO2があげられ、2015年のパリ協定においては、今世紀後半に人為的な温室効果ガス排出の実質ゼロを目指すと言われていた。本県の新ビジョンでもネット・ゼロ・カーボン社会の実現に向けて取り組むとされているが、これまでの対策と現状、今後の取り組みはどうなっているのか？

答 平成23年3月に策定した第二次広島県地球温暖化防止地域計画に基づき、エネルギー消費量の大きい事業者の温室効果ガス削減計画策定や公表による自主的な排出抑制、関係機関と連携した啓発活動に取り組んでいる。その結果、令和2年度の温室効果ガス排出量は、平成19年度と比較して、10%程度の削減が見込まれるが、国においては、2050年実質ゼロの宣言が行われるなど、国内外で削減要請が高まってきている。このため、現在策定中の次期計画では、排出量と除去量が均衡した実質ゼロのネットゼロ・カーボン社会の実現に向けた取り組みを一層強化する必要があると考えている。そのため、排出されるCO2を資源ととらえ、建設資材や燃料等として再利用する「ひろしま型カーボンサイクル」の構築を進め、環境への負荷の少ない持続可能な社会の実現を目指す。

【要望】 土木コンクリート製品へCO2を閉じ込める研究がされているが、公共工事における加点の仕組みづくりや農作物や植物栽培におけるCO2供給設備への支援等を進めることを要望する。

注目の取り組み ひろしまビジョン



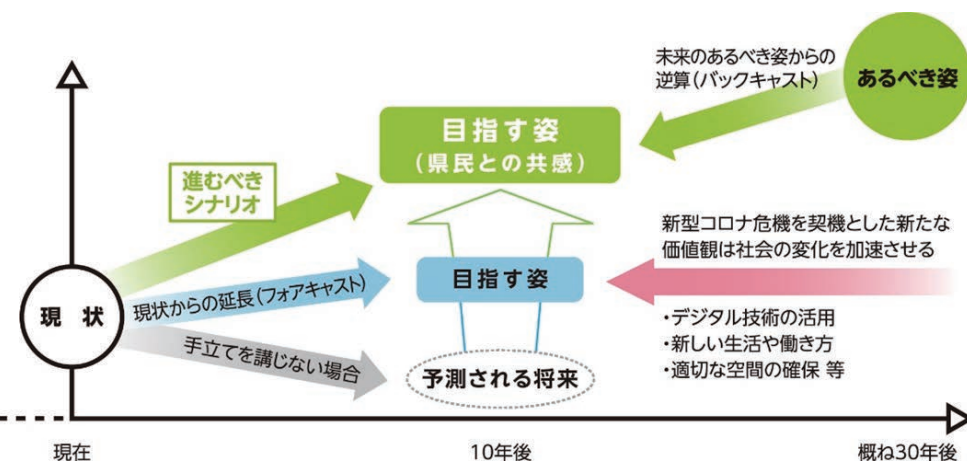
県民一人一人の夢や希望の実現に向けた『挑戦』を後押し

県民の『誇り』につながる強みを伸ばす

県民が抱く不安を軽減し『安心』につなげる

30年後の「あるべき姿」を構想した上で、10年後の「目指すべき姿」を示し、新たな広島県づくりの推進のため、2021年を始期とする新たなビジョンが策定されました。このビジョンに掲げる17の施策領域の課題解決を着実に実行するためのアクションプラン（計画期間5年間）も策定しました。（総合戦略として位置づけ）現在、それぞれの具体的な計画が出来上がってきています。

詳細は >> <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hiroshimavision/>



伊藤英治の情報発信

Facebook【ほぼ毎日更新】
www.facebook.com/itoeiji55

ブログ【不定期更新】
ameblo.jp/itoeiji

ホームページ【不定期更新】
www.itoeiji.com

いとう英治通信他【不定期発行】
年2~3回発行

YouTube 動画配信【不定期更新】
youtube.com/user/itoeiji55

メールマガジン【不定期発行】
登録は itoeito@mail3.piko-piko.net に空メール



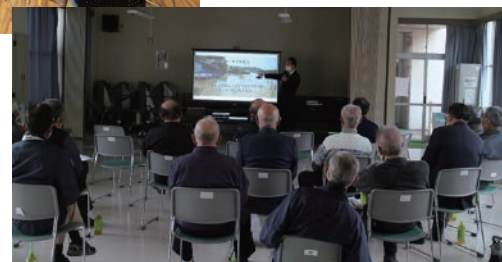
伊藤英治 検索
ホームページから Facebook、
ブログ、YouTube に移動できます



報告会 & 意見交換会



▲ 三原



世羅 ▶

マスクや消毒、密を避けるなどの新型コロナウイルス対策をとりながら、報告会・意見交換会を開催しております。

皆様の声を受け止め、伝えます！

「皆様の声と想いを、県政に伝えてまいります」と選挙戦で訴えかけて参りました。この約束を果たすべく、皆様の元に参りますので、ご連絡を頂ければ幸いです。

県政報告会・ミニ集会・ご意見聴取・意見交換会 等

グループ・集会・企業あるいは地域団体など、どこへでも参りますので、ご連絡の上日程調整をさせていただきます。※コロナ対策を行います（消毒液、体温計、マスクを用意します）



皆様のご意見・ご要望をお寄せください

☎ 0828-60-9022 ✉ info@itoeiji.com

いとう英治ホームページでは、ご意見・ご要望を送信画面よりお送りいただけます。また、より詳しい情報、日々の活動も随時ご覧いただけます。ぜひご活用ください。

メール ホームページ

